

人と人がやさしさでつながり、
助け合える「まち、暮らし」

つながり



- ①助け合える「仕組み」や「機会」を地域社会とともにつくる
- ②さまざまな資源をつなぐ
- ③暮らしのインフラとしての役割を担う

高校生向けの「コープこうべ奨学金制度」を創設しました

コロナ禍で経済的格差がますます拡大していることを受け、次世代を担う若者のサポートとして、「高校生向けの給付型奨学金制度」を創設しました。

8月から奨学金制度の応募受付を行い、コープこうべの活動エリアに居住する全57校、82人への給付を決定。11月から給付を開始しました。

9月に奨学金の原資となる集中募金を実施。店舗・宅配の合計で約650万円の善意が寄せられました。



全店舗で募金箱を設置

コロナ禍での食料品を通じた学生支援が進んでいます

新型コロナウイルスの影響で仕送りやアルバイト収入が減って困窮する学生を支援する取り組みとして、7月に開催された「第2回食材提供会」に協力しました。西宮市内の大学生が主体的に運営する「学生応援プロジェクト『繋がり隊』」が実施した取り組みで、第2地区本部と西宮市社会福祉協議会と関西学院同窓会が連携し、食材を提供。2日間で550人にお米や缶詰、レトルトカレーなどを配布しました。



食材提供会のようす

「たすけタッチ^(※)」は、実験地域での運用が進みました

神戸市垂水区の乙木小学校校区では、第5地区本部が中心となって「たすけタッチ」の実験を進めており、手助けしてほしい組合員が13人、手助けができる組合員が12人登録しています。「週2回のゴミ出し」の手助けを中心に、組合員同士をマッチングする運用が広がりました。

※たすけタッチ

ゴミ出しなど、ちょっとした困りごとを手助けしてほしい組合員と、近くに住む手助けできる組合員をコープこうべアプリでつなぐ仕組み。



コープこうべアプリを活用し、組合員同士の希望をマッチング

地域の方々とつながりながら「つどい場」づくりを進めました

コープ西宮南(西宮市)では、地域の多様な方々とワークショップを重ね、コープのつどい場※「しましまひがしまち」がオープンしました。

コープデイズ神戸西(神戸市)では、11月の改装オープンに合わせて、つどい場がオープン。気楽に活動相談ができる常設の「つどい場カウンター」を設け、いつでも自由に立ち寄ることができる「はじまりのテラス」など、幅広いニーズに対応可能なつどい場運営により、バラエティ豊かな多世代をつなぐ取り組みが生まれています。

※コープのつどい場

地域に開かれた居場所。誰もが気軽に集まって、つながりを作ったり、暮らしの課題を解決したり。みんなで作る地域活性化の拠点。



コープデイズ神戸西「コープのつどい場 神戸西」

組合員同士の交流や学習の場として、コープこうべの施設を活用

コープこうべ協同学苑(三木市)では、10月に子育てサークルと連携し、ハロウィンイベントを開催。合わせてコープカルチャー受講生による作品展や発表の場づくりを行い、約300人の参加がありました。

また、環境共生型農園「エコファーム」では、9月から10月に「さつまいもマイファームの収穫企画」、11月から12月にかけて、だいこん・かぶなどを収穫する「秋の大収穫祭」を開催、多くの家族連れで賑わいました。



NPO法人ほっぺの「秋祭り&HappyHalloween」イベント

「お米を贈ろう助け合い募金」を通じた食の支援を行いました

組合員から寄せられた「お米を贈ろう助け合い募金」(募金額:1027万1315円)を原資にお米を調達し、生活困窮者支援団体など、のべ295団体に約26トンを寄贈しました。

お米の寄贈をきっかけに、店舗や協同購入センターなどコープこうべ事業所と、生活困窮者支援団体や子ども食堂運営団体などとの新たな連携の取り組みが広がっています。



「東灘こどもカフェ」へお米をお届けしました

「大庄元気むら」で、組合員主体の活動が進んでいます

さまざまな多世代交流イベントを運営委員会や大庄コープ委員会が中心となって企画し、開催しました。12月、フェイスブックでつながる人たちが自由に企画・参加する「ごちゃまぜマルシェ」には、約200人の方々が集まり、交流しました。

また、スマートフォンを使って地図上にGPSでメッセージを描く「GPSプロギング(ゴミ拾い)」や、近隣の尼崎西高校とともに「2021★文化祭」を開催するなど、地域とのふれあいと交流が深まっています。



「2021★文化祭」のようす

地域の力で地域の課題を 解決する取り組みが広がっています

コープ箕面中央(箕面市)では「サニタリードライブ」を開始。食料品の他に不要となった大人用おむつや生理用品も回収して、生活困窮者支援につなげる取り組みです。

また、くらしに困窮する大学生などにも社会福祉協議会を通じてお米やサニタリー用品を提供しました。さらに、コープ大久保(明石市)では、使わなくなった子ども服やおもちゃを先輩ママ・パパから次の世代のママ・パパへとつなぐ「おさがり譲渡会」を定期的開催。地域の多くの方が参加する取り組みに広がっています。



おさがり譲渡会の会場のようす

オンラインでの コミュニケーションから 声を集めています

「コープこうべアプリ」は累計50万ダウンロードを超え、『めーむ』の注文以外にも、毎月約1000人から投票や商品コメントの投稿が寄せられるようになりました。投票結果や商品へのご要望は、今後の企画や商品提案へ活かします。

また、商品の美味しい食べ方などのコメントは『めーむ』紙面で紹介するなど、活用を進めています。



『めーむ』紙面での紹介例

地域との対話の出発点 「地域つながるミーティング」を開始しました

2022年2月から「地域つながるミーティング」がスタートしました。ミーティングは、組合員と地域の多様な活動者との出会いと共有を目的に、コープサークルや地域コープ委員会のメンバーをはじめ、地域の活動団体に参加を呼びかけました。

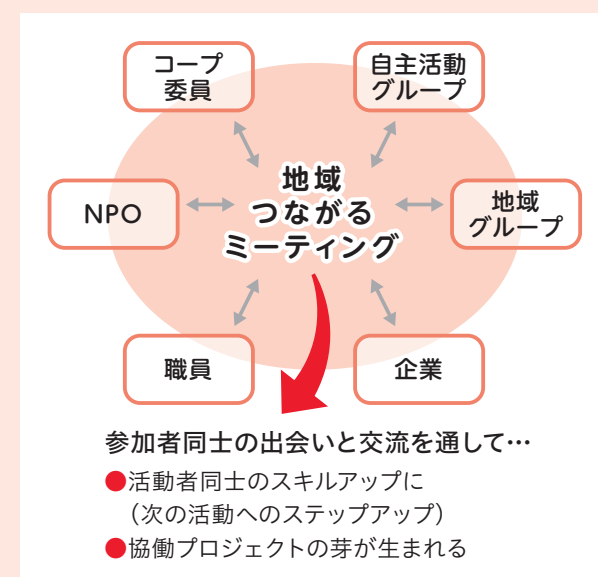
2月から4月末にかけて、のべ105の事業所で開催し、1351人が参加しました。「地域の困りごと」や「地域で一緒にできること」「グループ同士がよりつながるために」



コープ大久保の話し合いのようす

など、各事業所で設定したテーマに沿って、参加者同士がともにできることについて話し合いました。

地域つながるミーティングは、今後も夏と冬の年2回以上開催する予定です。



地域つながるミーティングのイメージ図

行政が行う子育て支援の 取り組みに協力しています

明石市からの受託事業「おむつ定期便^{※1}」では2313軒、たつの市からの受託事業「たつの市はつらつベビーまごころ便^{※2}」では59軒のご家庭を訪問。家庭に赤ちゃん用品をお届けし、親子の見守りを行っています。

また、子育てに関する悩みやお困りごとの相談受付に加え、希望者には宅配や共済の案内を行っています。

10月より、新たに加東市からの受託事業「かとうすこやか定期便」を開始しました。今後も、地域と一緒に子育て支援の輪を広げていきます。



加東市の「かとうすこやか定期便」

※1 おむつ定期便
0歳児を持つ家庭に月1回おむつなど赤ちゃん用品を無料配布するサービス。

※2 たつの市はつらつベビーまごころ便
0歳児を持つ家庭を対象に生後2カ月目と5カ月目におむつや離乳食など育児用品をお届けするサービス。

つながるマルシェ^(※)の 取り組みを継続しています

福祉作業所の商品は、心身に障がいを持つ人たちが生産・販売しており、地域との交流ややりがいにつながる活動です。

その福祉作業所の手作りの品などをコープこうべの店内で販売する「つながるマルシェ」を2月から3月にかけて45店舗で実施。2021年度より、大阪北地区エリアでも取り組みがはじまりました。また、コープ横尾(神戸市)では、「すまろしえ」(須磨区自立支援協議会と連携)が定期開催されるなど、取り組みが各地で広がっています。

※つながるマルシェ

新型コロナウイルスの影響で商品の販売機会が減っている福祉作業所に店舗のスペースを提供し、販売会を開催する取り組み。



つながるマルシェのようす

学童保育室の おやつ購入業務を受託しました

箕面市学童保育室におけるおやつ購入の業務受託では、お届けするおやつを『めーむ』の商品から選定し、月に一度、おやつメニューを箕面市教育委員会に提案しています。メニューを参考にご注文いただき、コープこうべが各施設へお届けしています。



学童保育室に商品をお届けしました

子ども食堂・コミュニティ食堂の 運営団体との顔の見える 関係づくりを進めています

「姫路青山コープのつどい場」にて、NPO法人フードバンクはりまや子ども食堂運営団体と、名古屋市内の子ども食堂関連団体とのオンラインでのネットワーク会を開催しました。40人が参加し、運営のノウハウや悩みの共有など情報交換を行いました。

また、フードバンクはりまへの配送車両の提供を行うなど、生活困窮者を支援する団体とのさらなる連携強化を進めています。



フードバンクはりまに配送車両を提供

「CO・OP NEXT100開発商品^(※1)」の供給を開始しました

2021年度より「コープ商品わいわい会議^{※2}」の組合員に商品仕様やパッケージコピーなどの企画に関わっていただきながら、産地や地域の取引先の課題を解決する「CO・OP NEXT100開発商品」の取り組みがスタートしました。第1弾「ほうれん草ちぎり」、第2弾「ひね鶏チャーシュー」に加え、2月には第3弾として、地元兵庫県神戸市のコロナ禍で余剰となったゆず果汁を使用した「サンドロール」「クリームパン」「どら焼き」がデビューしました。また、いかなごの漁獲量が少なくなり「くぎ煮」を炊く機会が減っていることにに対し、佃煮を作る文化の継承を目的に「佃煮用ちりめん」を開発しました。産地からも喜びや感謝の声を多くいただいています。



- ※1 CO・OP NEXT100開発商品
規格外原材料の有効利用、地域の活性化、工場の稼働促進など、地域の課題を迅速に解決するために、コープこうべと生産者、取引先が協同で開発を進める商品。
- ※2 コープ商品わいわい会議
組合員が日頃の生活実感を元に本音の意見を出し合い、今後の商品の開発や改善に組合員の声を生かす場。



買い物支援の取り組みを拡大しました

買い物ん行こカーは、コープ西宮南(7月から)、コープ西神(11月から)、コープ志染(1月から)、コープ龍野(3月から)での運行を開始し、3月末時点の登録者数は3039人となりました。コープこうべ全体では、30店舗にて27台が運行しています。

また、移動店舗では、地域とのつながりの維持・強化に向けて、地域団体の会議などに参加し意見交換を進めています。



買い物ん行こカー乗降時のようす

若者応援ポータルサイト「konoyubi★」を開設しました

若い世代の活動参加が各地区、地域で広がっています。若者の地域活動を応援することを目的に、1月「konoyubi★」を開設しました。高校生や大学生向けのイベント・学習会を紹介したり、学生が立ち上げたプロジェクトの仲間づくりを応援しています。

2022年度、サイトの活用を強化し、若い世代との接点を増やすとともに、若者の活躍を応援する取り組みをさらに広げます。



兵庫県立西宮今津高等学校 ハザードマップウォーク

SDGsアクションフォーラムを開催しました

2月26日(土)、「わたしのSDGsアクションフォーラム」をオンラインにて開催しました。フォーラム前半では、持続可能な地域の未来づくりに取り組んでいる団体や個人から活動に関する「画像・紹介文」を募集し、表彰する「わたしのSDGsアクションコンテスト」に応募いただいた総計36件の多彩な活動事例の中から、書類選考を通過された5組による最終選考会を実施しました。

総計60人の一般視聴者と審査員によるオンライン投票の結果、「社会福祉法人あまーち」がグランプリに輝きました。利用者の皆さんが取り組む「SDGsギフト」では、「ミツロウラップ」や環境に配慮した商品をセットにしたギフトを企画、販売しており、これまでの2年間の取り組みを発表しました。準グランプリを受賞したのは、兵庫県立北須磨高等学校の皆さんが取り組む「服のカプロジェクト」。地域や校内から集めた子ども服を難民の子どもたちに届けています。

また、フォーラム後半では、NPO法人「YouMe Nepal」代表のシャラド・ライさんが自身の体験やネパールの社会・教育の現状、未来を見据えた事業展開などについて

講演しました。

今後は、コープこうべアプリのルーム機能[※]を利用し、皆さまが取り組むSDGsアクションをよりシェアしやすくしていきます。

※アプリホーム⇒「コープTOUCH」⇒「ルーム」⇒「みんなでSDGsアクション!!」の順にタップしてください。



NPO法人「YouMe Nepal」代表のシャラド・ライさん



SDGsアクションフォーラムのようすはこちら



グランプリ受賞を喜ぶ「あまーち」の皆さん

地域包括連携協定など、行政、諸団体との協定締結を進めました

各地区本部が中心となり、行政や地域諸団体と連携した地域課題解決、まちづくりの取り組みを進めています。2021年度は、新たに、加古川市(10月)、宝塚市(1月)、たつの市(3月)と地域包括連携協定を締結。

また5月には、「丹波篠山市における買物困難者等への支援に関する協定」を締結しました。



宝塚市と地域包括連携協定を締結

「語り手学習会」を開催しました

「語り手学習会」とは、コープ商品やくらしの課題について組合員と職員と一緒に学習し、学んだことを周囲へ伝える「語り手」になるための学習会です。

2021年度は「コアノンロールの歴史とエシカル」「子どもの未来を考える」など7つのテーマで開催し、計91人が講座を修了しました。修了者は「語り手」として、2月に開催されたラブコープフェスタで発表したり、地域やコープ委員会などで講師をするなど、学んだことを自らの言葉で地域に広げています。



「協同組合」をテーマとした語り手学習会